

2022年5月27日

一般投資家さま向けオンライン説明会開催にあたり頂戴したご意見・ご質問へのご回答

2022年5月23日（月）、一般投資家さま向けオンライン説明会を開催いたしました。開催にあたり頂戴した、本説明会や当社に対するご意見・ご質問につきまして、下記のとおりご案内いたします。

Q1：自社株買いや増配は考えているか

まず自社株買いについてですが、「現預金が増える一方で再投資されず循環もされない」という企業においては、ROE (Return on Equity：株主資本利益率)のような各株式指標に紐づく株主価値向上の施策として実施されるよう考えております。

当社においては、経営上、現金を再投資に充てるべきテーマが非常に多く存在しており、再投資の結果、大きな飛躍を遂げられるポテンシャルを有しておりますので、自社株買いではなく再投資し事業規模を拡大することで、株主の皆さまのご期待にお応えしていきたいと考えております。

増配についてですが、今後も更なる増配を目論んでいきたいと考えております。会社として得られた利益を公平に分配するという考え、また、向こう3年分の配当総額に相当する準備金を保有することにより、仮に業績が悪化する時期でも安定した配当を実施したいという考えがあります。そして、上述しました再投資により事業活動を通じて得られる利益を大きくすることが、最も基本的に会社・社員・株主の皆さま全ての利害が一致するとも考えております。

当社グループが展開する事業は、その分野が多岐にわたっておりますことから、ある事業では「投資がかさむ時期」でも他の事業では「回収の時期」とすることで、全体としては利益の極端な棄損が発生しにくい業容であり、この10年間を見ましても赤字となった年は一度もありません。

当社グループの業績は極端な上昇・下降はないかも知れませんが、緩やかにそして着実に成長させ続けていきたいと考えております。

Q2：ロシア・ウクライナ情勢について、当社グループへの影響は

当社グループはロシア・ウクライナに拠点を保有しておらず直接的な影響はないと考えております。一方でこれに起因する原油価格や資材価格の高騰が続く場合、エネルギー関連事業やプラスチック（石油由来のもの）の取扱においてマイナスの影響を受ける可能性があります。

Q3：日医工社が事業再生 ADR を申請し受理されたことを発表したが、当社グループへの影響は

当社グループとは原薬関連でお取引させていただいている会社さまですので、影響はゼロということはありません。

一方で、当社 51%・日医工社 49%で出資し 2009年6月に設立しましたアクティブファーマ社について、昨年5月に日医工社より同社の全株式を取得し完全子会社化いたしましたので、当社と日医工社の資本関係は解消されております。また、アクティブファーマ社は日医工社に限らず多くの製薬メーカーとお付き合いさせていただいていること、ジェネリックだけでなく新薬や長期収載品の領域でも事業の幅を広げていることから、大きな影響はないと考えております。

Q4：イノベーションマガジン『Carbon』について、PR するなどして露出を高めてほしい

『Carbon』は現在、Webサイトをオープンしているほか、SNS（Twitter・Facebook）を活用し段々と露出を高めております。また、ご取材先のベンチャー企業やその代表者さまが SNS 等で『Carbon』を拡散してくださっているなど認知の輪が広がってきております。現在は当社グループの

お取引企業さまにお届けする会報誌として制作しておりますが、今後は『Carbon』ブランドでさまざまな仕掛けを企画・実行していきたいと考えております。

ご参考：

イノベーションマガジン『Carbon』Web サイト（デジタルブック公開中）<https://www.mitani.co.jp/carbon/>

イノベーションマガジン『Carbon』Twitter https://twitter.com/Carbon_magazine

三谷産業 Twitter <https://twitter.com/MITANISANGYO>

三谷産業 Facebook <https://www.facebook.com/MITANISANGYO/>

Q5：三谷産業の人事・福利厚生は魅力的な制度が多いように感じるが、結果として、安定志向の社員が残り、一方で向上心の強い社員が去ってしまう、もしくはそのような人材は三谷産業への入社を選ばないということに繋がらないかを懸念している

ご質問者さまのご懸念のポイントは、いわゆる「フリーライダー」の社員が出てしまうのではないかと考えています。事実としましては、当社グループには「創業 90 年を超えるベンチャー企業」に共感いただいた方が毎年数多く入社しており、また、当社は成果主義がだいぶ浸透してきておりますので、安定志向でフリーライドすることが難しい会社になってきているのではないかと考えております。

当社社員それぞれの目標は上司との対話により設定されますが、「三谷産業においてこのくらい成長したいよね、だからこのような目標を設定したいよね」と丁寧に対話を重ね決定しますので、このことが社員たちの働くことのモチベーションを損ねることは無いと考えております。また、とくに社会一般的に「定年」と呼ばれる年齢を迎えた社員は、後輩の育成や自身がこれまで培ってきた経験を形式知化・言語化していくような目標を設定しておりますが、当社では何歳になっても活躍できるチャンスが当然あると信じております。

以上